

がんばろう 南三陸町

復興第78号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

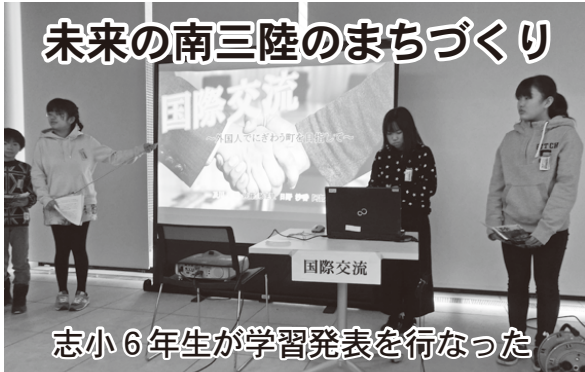
千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

企画・編集

志津川広報センター

未来の南三陸のまちづくり



志小6年生が学習発表を行なった

平成30年12月12日午前11時から南三陸本庁舎「マチドマ」に於いて、志津川小学校6年生が総合学習の時間で調査した事を一般町民や家族、役場職員の前で発表した。

1回目は11時から15分で4つのブースで、A観光・B福祉・Cスポーツ・D環境、2回目は11時15分から15分でA3つの認証・B産業・C国際交流・D防災の8つのテーマについて調べた事を15分ずつ発表し、発表後は時間内で質問にも応じた。会場は来場者でいっぱいとなり、場内には子供たちが調べた資料を、パネルに貼り掲示もした。

前半のAブースでは「観光」について、子供たちが平成22年度の観光人口を「140万人」にしたいと、嬉しい発言をいただいた。

後半のCブースの、「国際交流」の発表を聞いた。宿泊や交通、会話・イベントはインターネットなどの活用が必要との話をした。現在は宿泊地として民泊が40軒で、震災前は100軒以上もあった。そして、南三陸町には外国人が多く、観光協会の支援を受けパーティやバーベキュー等での外国人たちとの交流会を提案した。

会話については、英語を話せる人が少なく外国人とコミュニケーションが取れない。趣味を通してスポーツやお茶会などで話す機会をつくる。また、インターネットを活用し、動画発信

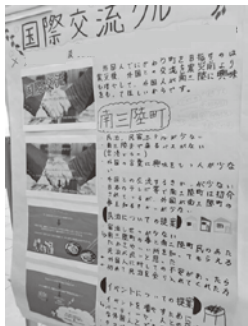
で南三陸の事を知ってもらい、そこに町の顔を入れる。交通情報には観光地の車の事も知らせる。楽な気持ちで町に来てもらいたいと話した。

外国の皆さんとは学校での交流で、イギリス・台湾の方と会い、西洋の違いを挨拶で知ったと発表した。

交流の感想を発表した児童に聴くと「会話に不安があったが、ジェスチャーで会話した。」「外国人は怖いと思っていたが、会話したら楽しかった。」「外国人が日本語を話すと安心して交流ができた。」と、語った。

外国へはどこに行きたいか?の質問には、「韓国は韓流が好きだから」「エジプトは歴史が好きだから」「フランスはエッフェル塔が見たいから」「アメリカは、バスケットボールが好きで、一緒にバスケットボールがしたい」「アメリカは自由の女神がみたい」と話す。

父母からの発表会の感想では、「都会にいと多くの外国人に会える、言葉が通じなくてもコミュニケーションができる。」、この発表会で予



13000人を割り込む 南三陸町人口の推移

(平成30年11月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
23年3月	17,064	7,823	2,296	1,884	5,061
30年11月	12,999	5,331	1,424	1,954	4,290
30年8月からの増減数	-57	-30	0	-13	-14
世帯数	4573	2096	471	650	1356

(2018年12月の新聞記事より)

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年)

10月の出来事

～地元報道より～

南三陸町

◆南三陸病院に1日、新院長初貝和明氏(50)が就任し、町役場で辞令交付式が行われた。外科の診療にあたる。

◆南三陸町は新生児聴覚検査費の助成事業を10月から新たに始めた。今年4月1日以降に生れ、検査を受けた新生児の保護者が対象で、さかのぼって申請することができる。町は本年度の新規事業として予算化したもので、初回検査、異常が見つかった場合の検査とも上限8千円に設定。

◆ベイサイドアリーナで30日、南三陸町福祉・健康まつりが開かれた。会場には町内外の福祉事業所やNPOなど約30団体がブースを設け、活動紹介や障害者ら施設利用者らの手芸品の販売などを行なった。

◆1日南三陸町生涯学習センターの上棟式が、古式にのっとり行なわれた。来年1月完成、4月下旬の開館を目標に工事が行なわれている。センターは木造平屋建てで、木材は南三陸産のものを使用している。

◆30日志津川湾タコまつり復興市が、志津川仮設魚市場で開かれた。タコを使った唐揚げやごはん・ハンバーガー・シチューなどを販売する店のほか、生きたマダコの展示コーナーやしゃぶしゃぶコーナーで、来場者はタコづくしイベ

ントを楽しんでいた。

◆南三陸町の志津川湾がラムサール条約に今月中に新規登録される見通しとなったと、環境省が2日発表した。登録されると、海域の湿地登録は東北では初、海藻、藻場としての登録は国内初になる。藻場を餌場とする天然記念物のコクガンは毎年飛来し、越冬地として重要な湿地としてしられている。

◆30日に南三陸町の町民憲章を題材にした「みんなの町民憲章虹色アートコンクール」の受賞者が決まり、4人の方が大賞を受賞し表彰式が行われた。作品は町内外から232点の応募があり、2～68歳までと幅広い年齢層から寄せられた。

◆南三陸町は家庭ごみの資源化を目的に実証実験に取り組んでいる。町社会福祉協議会の高齢者生活支援施設「結の里」に回収拠点を設け、志津川地区100世帯対象で11月30日まで行う。

◆3日、南三陸町立志津川中学校で企業6社による「キャリアチャレンジデイ」が行なわれ、3年生が進路選択前に各社の仕事や企業が果たす役割などに理解を深めた。

◆気仙沼・本吉地域広域消防防災センターで3日、「警防技術競技大会」が開かれ、南三陸消防署第2部が優勝した。署員の警防技術の向上、習熟度を高めることを目的に開かれている。

◆東日本大震災から交流を続けている志津川高校に、島根県の松江市立女子高校の生徒が3日訪れた。訪れたのは生徒会執行部8人で、志津川高校生徒会の1、2年生役員14人と交流、震災当時のことなどを学んだ。

◆南三陸町はふるさと納税の返礼品を11月から3割以下に変更する。

供たちは国際交流の大切さを知った。多くの来場者から、子供たちの発表にたくさんの拍手が送られた。

平成31年出初め式 南三陸町の火災から住民生活を守る



消防関係者400名が集合する

平成31年1月5日(土)午前9時からベイサイドアリーナ駐車場に、消防団員300名、交通指導隊員8名、消防署員30名と町の関係者で400名余りが集合した。

国旗掲揚から、人員報告を行ない式辞では佐藤町長が「安全安心な町づくりに昼夜をとわず取り組み、3件の火災発生におさえ、地域に根差した活動もみられた。熊本地震の発生もあり、日頃からの備えが必要と感じた。」と述べた。

高橋消防団長の訓示では、「今年は猪年ですが諸突猛進ではなく、前後左右を見て、力を合せて町民の命と財産を守っていただきたい。」と語った。

祝辞では、三浦議長と小野寺五典衆議員議員が団員を前に激励の言葉を贈った。

表彰伝達披露では、宮城県知事表彰(自治体消防70周年記念)として、第一分団団長の佐々木正喜さんが勤続31年で表彰された。次に宮城県知事表彰として、消防防災功労で10名が表彰され、宮城県消防協力表彰として41名の団員が表彰された。

最後の観閲では、町長・議長・防火婦人部長が団員の勇姿を確認した。

◆4日南三陸町志津川中学校の1年生が総合学習の「森星海連環学」の一環で、林業について学んだ。今は数少なくなった馬を使って、山から木を搬出する「馬搬」作業を見学した。

◆南三陸町立志津川小学校で10日、5年生が気仙沼信用金庫によるマネースクールで、お金の大切さを学んだ。

◆南三陸町が若者の定住促進を目的に導入したマイホーム取得補助金が人気となっている。40歳未満の夫婦を対象に、建築費の10分の1(上限100万円)を補助している。

◆震災前戸倉地区にあった志津川ネイチャーセンターを、戸倉公民館内に整備することを決定した。公民館の2階の一部を活用し、外側からの階段や海での活動後に使うシャワー室も設ける。

◆南三陸署は、アップルタウン南三陸ショッピングセンターで、買い物を終えて出てくる客らに、犯罪被害や交通事故防止を呼び掛けた。

◆14日、県PTA研究大会南三陸大会が南三陸町ベイサイドアリーナで、開かれた。東日本大震災で町が被災した経験から、「言葉」の持つ意味や力を考えることをテーマに設定。話しかける際に、名前を呼び語尾を明るく発音するだけで、「必ず変化が生まれる」とアドバイスした。

◆南三陸町観光協会は、秋から冬にかけて宿泊客数が落ち込む閑散期対策として、同協会に加入している施設で、11月1日から31年2月28日までの期間に、料金を割引くモニターキャンペーンを始める。

◆南三陸署などが志津川郵便局を訪れた利用者に、特殊詐欺に遭わないよう呼び掛けた。

ごみの処理費の増大対策

現在1枚当たり17.2円を30円への増額として
1世帯当たりの年間負担増額1370円に
(77号よりの続き)

ごみ排出量の推移は、震災の年の平成23年には人口15352人で3102tで1人当たり554gだったが、昨年の平成29年には人口13141人で4608tと一人当たり961gとなった。6年間で人口は2211人減少し、ごみは1506t増えた。また、ごみの処理費用は102343千円から203986千円増加し306329千円と、人口減少の中で約3倍にごみ量が増加した。一人当たりの処理費として6666円から23311円と、16645円の3倍近い増加となった。

要因として震災復旧や、仮設からの新築での家庭ごみや事業ごみが、年々拡大し気仙沼市へごみの搬出や山形への焼却灰の抛出が大きなごみ処理の経費として上げられている。

有料ごみ袋の手数料における受益者負担の割合を20%以下として、近隣市町の実施状況を踏まえ価格を検討している。現在、仙台市は1枚当たり40円(45ℓ・税別)、登米市は30円(45ℓ・税別)となっている。

南三陸町は、45ℓ袋30～40円(1枚当たり)の価格を想定している。1世帯当たりの年間ごみ袋(45ℓ)使用枚数は107枚として、現在17.2円(1枚当たりの市場価格)として1840円が、12.8円増の30円とした場合3210円となり、一世帯当たりの年間負担増額として「1370円」となる。

有料化導入の目的は、一人ひとりがごみの減量化や分別について意識することで、ごみの排出量抑制と資源ごみの分別が進み、処理費用を減らすこととなる。

宮城県内の市町村の実施状況は、平成30年4月現在で31.4%で、35市町村中11市町村が有料化となっている。



有料化の計画時期 平成31年10月からを想定

沼田地区の住民の声として、●袋が残った時はどうなるのか(新しい袋と交換できるのか)●デザインは変わるのか(色を変え判るようにしていく)●残った袋はシールを貼って利用しては、など現実的な意見が出された。31年の10月へ向け、町は4～10月までには使いきれよう、住民には対応してほしいとお願いした。

南三陸町のゴミ処理の現状

(南三陸町ゴミ排出量の推移)

	H23	H24	H27	H29
ゴミ排出量(t)	3,102	3,924	4,449	4,608
人口(人)	15,352	15,066	13,717	13,141
一人一日当たりのゴミ量(g)	554	714	889	961

(南三陸町ゴミ処理費用推移)

	H23	H24	H27	H29
ゴミ処理費用(千円)	102,343	113,750	221,687	306,329
人口(人)	15,352	15,066	13,717	13,141
一人当たりの処理費(円)	6,666	7,550	16,161	23,311

平成30年度南三陸町成人式に136人が集う！



平成31年1月13日
文化交流ホール於いて

今年の南三陸町の成人式は153人(志津川72名、戸倉17名、入谷20名、歌津44名)で、その中の9割にあたる136名がベイサイドアリーナに集合した。女性には色鮮やかな振り袖に身を包み、男性は凛々しい背広姿で、中には紋付羽織袴の姿もみられた。

玄関の受付では、しばらくぶりの再会に喜び、互いにスマホで記念写真を撮り合う、賑やかな

会場となった。

午後1時30分からの開式は、今年の成人者が実行委員会を立ち上げ自分たちの記憶に残る式典とした。



開式から町民憲章唱和では、新成人二人の朗読に続き全員で「海のように広い心で……大きな自然の手の

ひらで抱かれている町南三陸町」と唱和した。式辞では佐藤町長が「小学校6年生のもうすぐ卒業と言う時、大震災が発生した。日々を重ね自己研摩し、無限の力をいかに発揮していただきたい。」と語った。三浦議長は、20年間は耐える時代と語り「一人ひとりがそれぞれの使命を果たすべき事をしてきた」「ふるさとに誇りと愛着をもち、皆さん自身の手で、強くしなやかに新しい町を造ってほしい」と述べた。

成人代表の「誓いの言葉」では、佐藤京香さんが「大震災で自然の驚異を知らされた。人と人のつながり、感謝する事を教えてくれた。」「20年間私たちを支えてくれた家族・地域・全国・全世界・町に貢献する事を誓います。」と力強く述べてくれた。

成人の抱負では、歌津の畠山君が「輝かしい青春を過ごした仲間がいる。私たちが暮らしたこの町を、誇りに生きましょう。」と語り、戸倉の菅原さんは「復興を見ていると私自身も頑張らないと思う。」と話し、歌津の及川君は「名足小で津波を見て裏山に逃げた。私は漁師になり町のために活動していく。」と述べた。

記念講演では、「人生はあかもこうも生きられる～好きなことが道しるべ」と題し、小島慶子さんが立ち、TBSでの15年のアナウンサー生活や10～20代の摂食障害、30代で不安障害、40代となり軽度の発達障害と診断された。現在はエッセイスト・タレントとして、2014年から



(前ページよりの続き)

◆南三陸町の志津川湾が18日、新たにラムサール条約湿地に登録された。国内の登録湿地は52カ所、県内では4カ所目となった。

◆南三陸町の志津川湾で15日マダコ解禁になり、志津川魚市場に16日初水揚げされた。数量は約6トンと昨年の初日よりやや少なかった。

◆南三陸町志津川の水田で行なわれた田んぼアートプロジェクトの稲刈りが、13日行なわれた。地域住民や、志津川小・志津川高の児童生徒やボランティアら50人が参加した。

◆南三陸町の防災対策庁舎で犠牲になった人々たちを慰霊する献花台が、南三陸さんさん商店街近くに、22日移設された。

◆20日、南三陸町の神割崎キャンプ場で、感謝祭が開かれた。11月で今シーズンの営業を終える。

◆南三陸町戸倉地区で家庭料理や郷土料理を出品する「戸倉食の文化祭」が、21日開かれた。会場になった戸倉公民館が初めて企画。約90品が出品された。

◆23日南三陸町立戸倉小学校で、まゆ玉から絹の原料となる生糸を取り出す作業が行なわれた。4年生が卵からかえった幼虫を校内で飼育していたもの。

◆南三陸町の志津川東(西)復興住宅中央広場で、「走らないミニ運動会」が26日開かれた。住民自ら発案した企画で、復興住宅・町内の住民や近くのあさひ幼稚園の園児も加わり、120人が3チームに分かれて競技を行った。

◆南三陸町公衆衛生連合会が町内の国道沿いなどで清掃活動を行なった。春と秋の年2回行っている奉仕活動で、会員45人が参加し、志津川・戸倉・入谷・歌津の4地区に分れ、国道や町道沿いに投棄されているごみ220kgを回収した。

家族と生活拠点をオーストラリアに移し、日本への出稼ぎ生活だという。小島さんの歩んだ人生に出席者は耳を傾けていた。

南三陸町人口の推移

(平成30年12月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
29年12月	13,210	5,393	1,434	2,023	4,360
30年12月	12,987	5,328	1,427	1,952	4,280
29年12月からの増減数	-223	-65	-7	-71	-80

(2019年1月の新聞記事より)

昨年末までの2018年南三陸町の人口動向が発表された。1万2987人で、1年で「223人」が減少した。出生は70人で死亡は217人、自然減は147人だった。社会減は転入が343人に対し、転出が393人で「50人」が減少した。

外国人減少の26人は何を意味するのか。限られた出稼労働者の帰郷があり、今年度更なる外国労働者の入国が、政府の外国人雇用改革で、増加するのは南三陸町も同じで、労働力の減少は一時的なものと思う。事業所の経営戦略に外国人の確保は近々の問題としてある。

戸倉地区を震災後から見てみたい。30年8月末のタウン誌データで、震災前は2433人が地区で暮らしていた。多くの死者を出し、23年3月末では「2296人」で、減少数は震災死となる。30年8月には1424人となり、「1009人」が減少し、震災後の減少は「872人」と、先が見えない地域の再生を、待ってられないと近隣市町に移転したものと見られる。

昨年の戸倉地区の人口の増減は、7人が減少し「1427人」と、通常其自然減の状況に戻った気がする。

南三陸町の昨年の各地区減少は、志津川が65人減、歌津が80人減、入谷が71人の減と、地区の人口に対する減少率で言えば、これまで増加していた入谷地区の人口減が顕著に表れている。

◆南三陸町の八幡川と水尻川で、サケのふ化放流に向けた捕獲作業が24日始まった。捕獲数、採卵数とも東日本大震災以降最多となる好スタートを切った。

◆23日志津川高校で、認知症サポーター養成講座が開かれ、1年生60人が認知症への理解を深めた。町の高齢化率は34.9%(3月末現在)と、年々上昇している。65歳以上の4人に1人が認知症を発症するとされる。

◆南三陸町立志津川中学校で27日、東日本大震災クラスの地震・津波を想定した避難所運営訓練が行われ、全校217人が運営本部からの指示をもとに、救護所の開設や避難してきた住民の受付、待機場所の設置など、めまぐるしく展開する避難所内の動きに、戸惑いながらも声を掛けあって行動した。

◆26日兵庫県三田市の三田市防火安全協会が、南三陸町防火管理者協会と危険物安全協会南三陸支部に特産の黒豆を贈った。黒豆の寄贈は、15年に南三陸町で同協会と三田市消防本部が地域住民と炊き出し訓練をしたときから継続している。

◆南三陸町産業フェアが28日、ベイサイドアリーナ特設会場で開かれた。餅まきで景気づけし、農業・水産・観光など50のブースが出店。南三陸町と交流のある、山形県庄内町と茨城県鉾田市も参加。庄内柿や庄内豚、焼き芋などの販売が大盛況だった。

◆南三陸町立伊里前小学校の児童が、本年度開通予定の三陸道の工事現場を29日見学した。4、5年生42人がグループに分かれ、本線上を歩いて移動しながらブースを回り、近くで目にする機会が少ない工事車両の説明を受け、実際の乗り心地も体験した。

◆南三陸町内に滞在し地域実習を行ってきた、大正大学の学生が27日、町役場内の交流スペース「マチドマ」で、住民とふれあいながら取り組んだ課題研究の成果を発表する、報告会を開いた。